

令和 3 年 6 月 30 日現在

機関番号：32689  
研究種目：奨励研究  
研究期間：2020～2020  
課題番号：20H00675  
研究課題名 中世後期における真言宗寺院の祈雨儀礼に関する調査研究

## 研究代表者

有賀 夏紀 (ARIGA, Natsuki)

早稲田大学・日本宗教文化研究所・招聘研究員

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 400,000円

研究成果の概要：本研究は、真言宗寺院に伝存する中世後期の祈雨関連資料の調査・分析を通して、真言宗の儀礼空間を立体的に把握し、儀礼によって照射される中世的神仏の様態と、その形成基盤となった寺院の「知」の体系を究明することを目的とした。当初計画していた寺院調査は、新型コロナウイルスの流行により実施困難となったため、すでに収集済みの資料の読解・分析を主軸として研究を進めた。具体的には、称名寺聖教(神奈川県立金沢文庫保管)に含まれる修法関連資料から、密教儀礼とその根拠となる教説との影響関係を検討し、真言宗寺院の儀礼をとりまく宗教世界の一端を明らかにすることができた。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまで未検討であった資料を通して中世真言宗寺院における密教儀礼の思想的背景を考察したこと、に学術的意義がある。とくに称名寺聖教の修法関連資料の内容分析において、当該資料が中世の仮託書や疑偽経典と通底していることなどを明らかにした。この成果は、14世紀の真言宗寺院における学問の様相を示す一例として位置づけられる。また、自然の猛威があらためて痛感される昨今、日本中世の人々の災害に対する向き合い方や、それを支える知の体系の解明にも繋がるものと考えられる。

研究分野：日本中世宗教文芸

キーワード：祈雨儀礼 称名寺聖教 寺院資料 宗教文芸

## 1. 研究の目的

本研究は、真言宗寺院に所蔵される中世後期(14～16世紀)の祈雨関係資料を調査・分析し、中世寺院における儀礼空間の復元的研究と、儀礼を支える思想基盤および寺院間の知的ネットワークの解明を目指すものである。計画は、次の通りである。

### (1) 祈雨法に関する次第類および講式の調査・収集・分析

東密の祈雨法には「請雨経法」「水天供」と称する密教修法があり、その作法や手順を記したものが次第である。基礎的な作業として、この次第類を収集し、整理・分析する。

また仏教儀礼で用いられる講式の式文は、対句表現を駆使した美しい表白体で綴られ、経典や注疏のほか、漢籍や説話、物語叙述を含むなど、作者の学問基盤をうかがわせる。本研究では天野山金剛寺蔵『龍王講式』を検討し、講式が用いられた祈雨儀礼の具体相と、作者の学問体系を考える。

### (2) 密教儀礼の根拠となる教説の検討

中世の儀礼を支える仏教教理の様相を解析するため、金沢称名寺が所有する「称名寺聖教(神奈川県立金沢文庫保管)」の修法関連資料を分析する。とくにダキ二法に関連する資料を取り上げ、鎌倉後期から南北朝期の密教修法の思想的背景と成立環境を明らかにする。

## 2. 研究成果

当初は大寧山覚城院(香川県三豊市)、高幡不動尊金剛寺(東京都日野市)など各地の真言宗寺院や、神奈川県立金沢文庫において資料調査を行ない、関連資料を収集・分類する予定であったが、新型コロナウイルスの世界的流行にともない、調査の実施が困難となった。そのため、すでに収集していた次第類の分析・分類を行い、儀礼が依拠する仏教教理の解明を進めた。

まず、真言宗の祈雨法に関する事相書や次第類の読解・分類に着手した。その結果、次第には修法の手順や用具、所依の経疏などが記載されており、儀礼の作法や思想的背景を知ることができた。

また、称名寺聖教に含まれるダキ二法の口伝集『辰菩薩口伝』『辰菩薩口伝上口決』の内容分析を行い、両書の言説が中世の『法華経』をめぐる仮託書や疑偽経典と通底していることなどを明らかにした。これらの典籍で説かれる秘説は、天皇の即位灌頂とも結びつき、儀礼を支える根拠のひとつとなっている。これは14世紀の真言宗寺院における学問の様態を示すものでもあり、テキストの叙述と思想基盤の検討を通して、中世の真言宗寺院をとりまく宗教世界の一端を明かすことができた。

今後は上記の作業を継続しながら、今回実行することができなかった寺院調査と資料収集を行い、中世の儀礼をめぐる思想と環境について究明していく予定である。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 有賀夏紀	4. 巻 19
2. 論文標題 ダ釈尼天と『法華経』をめぐる儀礼の言説 称名寺聖教のダ釈尼天資料を手がかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------